



# 第18回 長崎大学病院 ICLSコース



平成30年2月17日(土)開催

主催:長崎シミュレーション教育研究会  
共催:長崎大学病院 外来・救急医療教育室  
シミュレーションセンター  
救命救急センター  
協力:日本光電九州株式会社

## コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

## ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実に行なうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

## 実施結果

受講生12名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。  
また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター5名、アシスタントインストラクター6名)計13名で指導を行い、2ブースを問題なく運営した。  
また、スタッフは医師だけでなく、看護師、救命士、とコメディカルからの参加もあった。

※スタッフ詳細はP.4



<実施内容>

開催日時	平成30年2月17日(土) 9:20~17:00
受講者数	12名
対象	初期研修医8名、看護師 2名、歯科医師2名
場所	長崎大学病院 シミュレーションセンター

<スケジュール>

		グループ(1)	グループ(2)
09:00~09:20	0:20	受付	
09:20~09:30	0:10	オリエンテーション	
09:30~10:20	0:50	BLS+AED	
10:20~10:30	0:10	休憩・移動	
10:30~11:20	0:50	気道管理	モニター
11:20~11:30	0:10	休憩・移動	
11:30~12:20	0:50	モニター	気道管理
12:20~13:10	0:50	昼食	
13:10~13:15	0:05	BLS・ALSデモンストレーション	
13:15~14:25	1:10	チーム蘇生	チーム蘇生
		VF/VT	VF/VT
14:25~14:35	0:10	休憩・移動	
14:35~15:20	0:45	non VF/VT	non VF/VT
15:20~15:35	0:15	休憩	
15:35~16:35	1:00	メガコード	メガコード
16:35~16:45	0:10	移動	
16:45~17:00	0:15	終了式・修了証授与式	

午前:BLS、気道管理

インストラクター: ○長谷敦子、横山誠、吉村聡志 アシスタント: 村橋志門、百木真吾、山口愛鈴
--

午前:BLS、モニター

インストラクター: ○立石洋平、波多史朗 アシスタント: 本田智治、田島吾郎、潮屋弥希
--

## ◆アンケート◆ 受講者の声

- ・変わった。どう動けば良いのかを繰り返すことで少しずつ動けるようになったのと、チームとしてどう動けばいいのか体感できた。
- ・知識を深めることができた。
- ・ハリーコールが実際になった時に、どんなふうに行動するかを頭の中でシミュレートできる気がする。
- ・心停止の患者の対応に前より自身がついた。
- ・急変時対応はパニックになるけれど、一度落ちついて判断するための知識を身に付けることが出来たと思う。単にDr.の指示を待つのではなく自ら行動できるようになったはず。
- ・ハリーコールなどICLS受講前は何をしていいかをきちんと理解できていなかったのですが、今日受講して流れ・ポイントを理解できてよかったです。
- ・医師として蘇生をする際に自身をもって支持を出したり処置をしたりできるようになったと感じる。
- ・体を動かすことでしか覚えることが出来ないような事も経験できたので良かったと思う。
- ・本番を考えるともっと学習しなければいけないという気持ちになった。
- ・蘇生の現場に遭遇しても、チームの一員としての役割が少しは果たせるようになった感じがしています。
- ・チームで意志確認し合う大切さが分かった。以前よりも落ち着いて対応できるかなと思った。

## ◆アンケート◆ スタッフの声

### 1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・意欲的だったと思います。4
- ・事前学習はやって来てない方も多かったが、やる気は感じた。
- ・ほぼ、積極的でした。
- ・グループBの元気が良かった。
- ・性格にもよると思うが、生徒によりまちまち
- ・やる気がある方ばかりでした。
- ・全体的に良いが少しおとなしめ。

### 2) 予備知識（予習含む）はどうだったか？

- ・研修医が多く充分であった。2
- ・学習している人、していない人（細かい部分）のばらつきがあった。
- ・予習もされていたようで、やりやすかったです。2
- ・少し不足気味（1年次終わりにしては）完璧ではないが、適度だと思う。2

### 3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・Dr.が多く、やる気もあり、知識も豊富であった。
- ・伝え方が上手だった。しゃべりすぎているかなと、思うところもあった。
- ・知識もそれぞれのバックグラウンドに応じた豊富な知識を持っていて、成人教育のコーチングも問題なかった。
- ・皆、リーダーシップを発揮していてすごいと思います。
- ・受講生からうまく答えを引き出すことができていました。たくさんフォローして頂きました。
- ・思いやりのある方ばかりで、いいチームでした。
- ・うまくフォローを入れてくれた。・素晴らしかったです。6
- ・積極的、知識もある程度つけて来ていると感じた。
- ・説明の仕方など、お手本になりました。
- ・機械類の使い方をマスターしないといけないと思いました。
- ・大変仕事がやりやすく、良かったです。
- ・熱心。レベル高い。

### 4) 今後について、ひとこと

- ・来年度も4回あるとの事で、どんどん質を高め継続して行ってほしい。
- ・ますます盛り上げて行きましょう。また、よろしくお願いします。
- ・また参加していきたいです。よろしくお願いします。
- ・毎回楽しみに参加しています。今後もよろしくお願いします。2
- ・継続は力なり。引き続きお願いします。2

### ●改善点●

- ・すこしずつ準備になれたが、初めての参加でも準備出来るように部屋のセッティング図を準備して欲しい。
- ・ABCD (primary secondary) を会の初めに説明すると、実技中のマネージメントがやりやすくなるのではないかと思います。
- ・仕方ないかなと思う。その中で必ず押さえるべき点を伝えて行きたい。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ALSシミュレータ、操作用PC	3	
レサシアン	6	
バックバルブマスク	6	
AEDトレーナー	4	フィリップス
気道管理トレーナー	3	
モニター付き除細動器	3	単相性(予備) 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
口腔エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡ブレード(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	3	
聴診器	3	
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	4	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	6	
メトロノーム	2	
延長コード	4	



**長崎大学病院 外来・救急医療教育室  
地域医療支援センター、シミュレーションセンター**

〒852-8501

長崎市坂本1丁目7番1号

電話 (095) 819-7346

FAX (095) 819-7379